週刊 観光経済新聞
宿泊・旅行業・運輸・自治体（観光全般）

第2部

高校教育旅行特集

ウィズコロナの修学旅行 旅行会社の取り組み

新型コロナウイルス感染症流行の拡大によって高等学校の修学旅行は延期や中止に追い込まれた。ウィズコロナの時代に、旅行会社は修学旅行に対してどういう取り組みを進めるのか。教育旅行事業に強いJTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行、東武トップツアーズの4社に聞いた。

現状と今後の見通し

20年度の実施は70%減

2020年度の教育旅行市場は、かつてないほど大きく落ち込んだ。JTBは「春季修学旅行は全て8月以降に延期となったものの、コロナの第2波、第3波の影響により再延期を余儀なくされ、最終的に修学旅行の『中止』をせざるを得ない学校が相次いだ」と状況を語る。日本旅行は「自治体の指示で旅行を中止した学校があった。学校の独断で実施を決められなかった。私立は自由に決められるが、私立の方が中止になる傾向が強かった。半分以上の学校が今年の1～3月に実施時期を移行した」と動向をとらえる。

修学旅行の実施数を見ると、「自治体からの自粛要請や学校独自の判断で、中止に至るケースが多く例年の30%程度にとどまった」と近畿日本ツーリスト。東武トップツアーズは「コロナ禍の2020年度は対前年33・2%、生徒数は対前年29・2%と激減した」と明かす。日本旅行も「最終的に高校全体で70%台（約4分の3）のキャンセル。実施が3割弱だった」としており、教育旅行の取り扱いは各社ともに前年度比でおよそ70%減と苦しい状況だった。

東武トップツアーズは「修学旅行は一生に一度っきりの思い出であり、日本独自の文化的な学習効果の高い取り組みとされ、学校生活の中でも一大イベント。学校としては、コロナ感染のリスク回避を最優先とせざるを得ず、保護者の意向、教育委員会や都道府県の自粛要請などを考慮せねばならない先生方の苦悩が感じられる」と学校側の胸の内を語る。

3割程度の教育旅行が実施されたわけだが、「不測の事態に備え航空機利用を避ける傾向にあった。また、行き先の医療体制なども考慮し当初予定していた目的地の見直しを行う学校が多くあった」（近畿日本ツーリスト）。「当初の計画通りの実施は少なく、日程を短くし域内に限定した『マイクロツーリズム』が主流となった」（JTB）。「日数を短縮したり、日帰りにしたり、行き先を近場に変更したり。リモートの修学旅行もまれではあるがあった」（日本旅行）。「コロナの影響により目的地が遠方から近場の域内へ変更され、日程も日帰りや1泊2日などに短縮する例が多く、データからもそれらの特徴が読み取れる」（東武トップツアーズ）。

方面に関しては「多くの高校が訪問していた『沖縄』を避ける傾向が顕著であった」と分析する近畿日本ツーリスト。日本旅行は「今まで修学旅行が少なかった方面への需要が出てきた。例えば北陸。コロナのリスクを軽減できて、なおかつ学習の要素があるところ。石川を中心とした北陸には歴史や文化、伝統工芸など学習の要素が多い。東北も需要があった」と行き先の多方面化を指摘。一方、「東京は修学旅行が多い方面だったが、昨年は激減した」という。

今後の見通しについてJTBは「実施した学校からのコロナ感染はほとんどなく、徹底した感染症予防対策が功を奏した形だ。政府の進める『管理旅行』を実践することで、旅行実施できた事実がエビデンスとなり、次年度はこの実績に基づくリアルでの修学旅行実施が復活するものと考えている」と明るい展望を語る。

感染症の予防対策

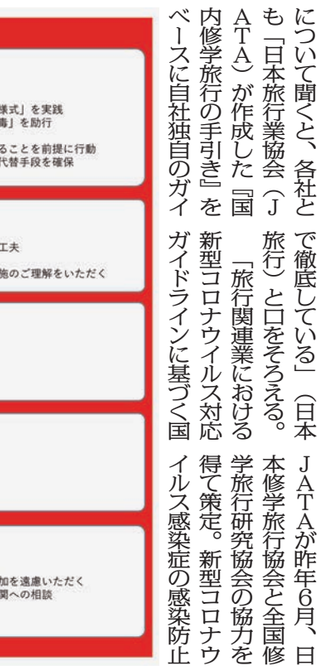
ガイドラインを順守

コロナ感染症予防対策について聞くと、各社とも「日本旅行業協会（JATA）が作成した『国内修学旅行の手引き』をベースに自社独自のガイドラインを策定し、社内で徹底している」（日本旅行）と口をそろえる。

「旅行関連業における新型コロナウイルス対応ガイドライン」に基づく国内修学旅行の手引きは、JATAが昨年6月、日本修学旅行協会と全国修学旅行研究協会の協力を得て策定。新型コロナウイルス感染症の感染防止を極力図り、充実した修学旅行を実現するためのガイドラインだ。

JTBは「JATAの『国内修学旅行の手引き』を基準とした、『コロナ感染症予防対策』書面を学校、保護者へ配布し、旅マエ、旅アトを含め話す。例えば、検温は朝昼晩の1日3回で、添乗員が体温計を予備で必ず持参。生徒がコロナにか からないよう万全を期しているが、「万一、疑義が発生したり、陽性者が出たりした場合も、その時点でどう対応するかを社内で徹底している」。

旅行前の取り組みとして、「利用する輸送、宿泊、食事、入場拝観、体験などの感染症予防のための体制が整っているか否かを慎重に判断し、適切な施設選定を行っていく」と言う東武トップツアーズ。旅行後は「2週間後に健康管理チェックを実施してもらい、その間に体調不良者が発生した場合の旅行内容との因果関係の調査、関係機関への情報共有と原因究明、感染拡大の阻止など、さまざまな取り組みを推進している」。



JTBの「コロナ感染症予防対策」書面の感染防止対策チェックリスト

旅行提案のポイント

コロナ対策を重視

教育旅行の提案に関して各社は何をポイントに置いているのか。「コロナ禍の中で、人との接点をできるだけ削減することを意識している」というのは日本旅行。具体的には「観光地では、ガイド が大声を出さず、口元のマイクで話す。生徒がイヤホンでその話を聞くような様に、1テーブル当たりの人数を減らしている。

JTBもコロナ対策を重視し、特に訪問地のコロナ感染症対応に関する情報収集に努める。「観光事業者のコロナ感染症対策が徹底されている中では感染者が出た際の対応が主な心配事だ。陽性、濃厚接触者への対応は保健所、病院受け入れ、移動手段と多岐にわたり、分かりやすい『対応シミュレーション表』が学校や保護者の安心につながっている」。

近畿日本ツーリストでは、「学校からは『SDGs』『探求型のテーマ性ある企画』『グローバル教育』『旅行期間だけでなく事前・事後学習をできるだけ削減すること』を意識している」として、これらのニーズに対応した修学旅行の企画、提案を進めている。

東武トップツアーズは、感染症予防のの取り組みは重要事項とした上で、「最優先に重要視しているポイントは、学校から教育方針を聞き、教育旅行の中で求められる教育課題、目標について学習効果の高い活動が実施できるようにすること。さまざまな提案ができる体制と、積み重ねられたノウハウを駆使してお手伝いしたい」と語る。

学習面に関する提案

SDGsや探究学習

学習指導要領では、旅行・集団宿泊的行事について「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」と示す。各旅行会社では、学習面に関してどんな提案に力を入れているのか。

「近年は学校側のニーズが高い『探究学習』『SDGs理解』『グローバル教育』などの取り組みをサポートするさまざまなプログラムを提案してきた」とJTB。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた20年度は「修学旅行を中止する学校や自治体が多い中で、ニューノーマル時代の子どもたちの思い出づくりや学びの機会保障や、観光事業者へのサービス提供機会創出を実現するためのプログラムとして、リアル×VRの新感覚体験型旅行『バーチャル修学旅行360』を昨秋開発した」。すでに多くの学校に利用され好評だが、「やはりあくまでも本来の修学旅行を実際に体験してもらうことが生徒にとって最良の思い出づくりにつながる」と語る。

「総合的な学習の時間、キャリア学習、グローバル教育推進、探究学習といった学校のニーズに従い、さまざまな学習プログラムを提案できる体制整備、社内教育の徹底、異業種企業との連携などを推進している」と東武トップツアーズは強調。例えば、「NOLTYプランナーズとの協業により開発、販売を推進している『探究プログラムノート』などは、多忙な先生方の探究学習のバイブルとして大変好評だ」。

近畿日本ツーリストは「旅マエ、旅ナカ、旅アトの各シーンに取り込んだSDGs学習」や「ユニバーサルデザイン（こころのバリアフリー）の学習・体験プログラム」「リモート修学旅行」などの提案に注力する。

「コロナ禍でもあり、ICT化を進めている学校が多い。そのためオンラインプログラムを充実させている」という日本旅行。また、「旅行会社で唯一、SDGs宣言をしている観点から、SDGsをテーマとしたプログラムの開発に力を入れている」。京都市のSDGs達成に向けた取り組みを学び、自らの街に生かすアイデアを考えるプログラムなどをそろえている。

日本旅行の添乗員が用意する体温計

旅行会社4社 学校に伝えたいメッセージ

「学びの旅」を基本に　JTB

今年度コロナ禍において、修学旅行の「中止」を決めた学校が多々ある中で、さまざまな「工夫」をして実施に踏み切った学校も多くあります。

今後も生徒の安全・安心の確保を第一に、新型コロナ感染症対策を徹底する必要はありますが、これを機に「学びの旅」であるという修学旅行の基本に立ち返り、リアルな体験を通して学ぶことの意義を、これからの修学旅行では何よりも大切にすべきと考えます。

最新の情報を共有　近ツー

特別活動におけるさまざまな体験は、生徒の成長に大きな教育的影響をもたらすと考えます。

新しい生活様式の中でも、安心して旅行行事を実施していただけるよう、関係機関と綿密に連携した上で最新の情報を学校と共有し、でき得る限りの安全対策に努めてまいります。

宿泊行事が実施できない状況であれば、日帰りやリモートでの体験をご提案させていただきます。

さまざまなプログラム　日本旅行

実際に旅行ができれば一番いいのですが、旅行ができない環境下でも、オンラインなど、さまざまな工夫を凝らしたプログラムを用意しております。

気兼ねなく何なりとお申し付けください。

最大限の努力を約束　東武トップ

生徒、先生、保護者の皆さまと一緒にコロナ禍と立ち向かい、感染症対策を徹底した取り組みを推進いたします。皆さまにとって安心安全な教育旅行の実現のために、全社の総力を結集した経験、ノウハウを傾注して、最大限の努力を行うことを約束いたします。

学校、先生からご要望がございましたら、何なりと気軽にお声がけください。生徒にとって一生の思い出作りをお手伝いいたします。

LION 業務用
手指消毒剤
手指消毒 速乾ソッカン ジェル
HAND ALCOHOL GEL
83mL（100mL中）日局エタノール配合（有効成分）
指定医薬部外品
<販売名>薬用アルコールジェルCB
100mL携帯用 ボトル:幅48×高さ125×奥行34mm
500mLポンプつき ボトル:幅77×高さ180（ポンプスプレーを含む）×奥行64mm
一人一人の手を いつでも清潔に！
詳しい情報はコチラ
ベタつかずすぐ乾く！
手指消毒剤のさまざまなご要望・お悩みに ジェル 高濃度 携帯 のご提案
液が飛び散らないものがいい 使い切りタイプで、「誤つめかえ」の心配がない。 ジェル ・各教室内、体育館などの出入口 ・保健室、給食室などの常用
動きまわるので、常に身につけたい 個人の衛生管理もしっかり徹底したい 携帯 ・先生方が携帯して生徒の手指衛生をフォロー ・トイレ後や食事後、運動後、清掃後により徹底した手指消毒を
ライオンハイジーン株式会社
本社：〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-2-1 アルカセントラル6階
☎ 03(5819)7770(大代表)　https://www.lionhygiene.co.jp/